（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	真壁　朝敏	所　属	工学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	担当する学部の必修科目に注意を払って、ペース配分を考えて講義を行う。また、博士前期および後期の学生が成果を残して修了できるような指導を行っていく。	0.35	講義の時間配分に注意を払いペース配分を工夫する等の改善を行った。担当する大学院博士後期の院生３人の論文指導を行い、３人が投稿した学術論文が受理された。卒業研究や大学院の研究において、自らの工夫を研究に生かすようにアドバイスしている。
研究	0.33	博士後期、前期および学部学生の研究指導を行いながら、一つ以上の論文を投稿する。また、インドネシアの大学や沖縄工業高等専門学校の職員との共同研究を行う。	0.33	博士後期、前期課程の院生とともに投稿した論文が受理された。そして、沖縄高専、インドネシアの大学、佐賀大学の教員との共同研究の論文が受理されていいる。また、トヨタ車体との共同研究の内容も論文にまとめて投稿した。本学科の技術職員の研究指導も行っている。
社会貢献	0.20	日本機械学会、日本材料学会の委員として、両学会の運営に協力する。自動車メーカーの設備の保全に関し、アドバイスを行う。沖縄県の工業技術センターの職員等との連携に協力する。	0.20	日本機械学会、日本材料学会の委員として、両学会の運営に協力した。特に、日本材料学会九州支部幹事としての役割を果たした。また、国内および国外の学術論文の校閲を複数行った。トヨタ車体との共同研究の成果に基づく共同特許を出願した。沖縄工業技術センターとの共同研究テーマを見出した。
管理運営	0.11	学部・学科の一員として会議等に参加し、運営に協力する。将来計画委員会の委員として協力する。また、日本機械学会九州支部の琉球大学学生顧問としての学科内活動に協力する。	0.11	学部・学科の一員として会議等に参加し、運営に協力した。また、日本機械学会九州学生会の顧問として、行事・運営に協力した。
進路指導	0.01	４年次指導教員の一人として、進路指導に協力する。	0.01	４年次の指導教員の一人として、進路指導に協力した。そして、卒業研究の活動に関して協力した。
	0.00	なし	0.00	なし
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載しました。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	斉藤正敏	所　属	工学部機械システム工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	1.機械材料Ｉで一回の講義毎に5問程度の演習問題を含む102ページにわたる配布資料を作成し、理解度のチェックと履修率の向上を目指す。 2.大学院で日本人学生向けの英語の講義を行い、学生の英語力向上に寄与する。 3.8月にプラハで開催される国際電気学会での発表を指導する。	0.30	1. 講義ノートを学生に渡すことにより、簡単な質問、演習問題を学生に解かせるための時間を作ることができ、学生の理解度が高まった。 2. 英語での講義を行い、工学部前期課程の目標を達成できた。 3.3名の修士課程の学生がプラハのISE国際学会で発表を行うことができた。
研究	0.25	1.本年度が科研費の最終年度であるので申請時に掲げた研究目的を遂行する。 2. 内部応力の動的振る舞いと表面モフォロジーの関係を明らかにする実験を行う。 3. 陽極酸化の平均場近似を完成する。	0.25	1.　科研費の成果としてISEで発表を行い、論文１通がJ.Phys.に掲載され、報告書を作成することができる内容となった。 2.研究は順調に推移し、現在論文にまとめており、投稿予定。 3.　表面相転移を発見し、これに関して予算を取るため、科研費に応募した。
社会貢献	0.30	今年度からVersitaの化学のassociate editorとなったので査読以外に出版物への助言、提言の仕事を行い、又Editorial Boardのメンバーとして三つの欧文誌electrochemistry、corrosion、ISRN materials scienceをサポートする活動を行い、3誌の国際的評価向上に寄与する。	0.30	今年度はjournal4件の論文reviewを行った。The open electrochemistry journalへ論文を1報投稿して出版され、Editorial Board memberとしての役割を果たした。
管理運営	0.05	研究関連の会議で提言を行う	0.05	研究推進会議が2回しか開かれず、また突然であったため、日程の都合が1回しかつかなかった。1回の会議に参加して、文科省が昨年の6月に示した改革実行プランについて発言をして工学部の現状について認識を深めるようにした。
進路指導	0.10	3年の指導教員として就職活動や進学について助言や指導を行う。卒論生や修士2年生については就職活動に戦略を持って臨むための指針の指導を行う。	0.10	卒論生3名の内、2名は公務員浪人、1名は民間会社に就職、また修士2名は2名とも民間会社に就職。これらは学生の努力の賜物であるが、指導教員として長期にわたる就職活動と卒論、修論と両立できるように、実験日程の組み換え、面接に関するアドバイスを行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	古川　俊雄	所　属	工学部　機械システム工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	演習付でない科目でも授業に占める演習の割合を多めにして、学生の理解度が増すように務める。また、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行う。そして、授業評価アンケートの総合評価「ふつう」以上が70%を超えるように務める。	0.30	演習つきではない科目に対しても演習の時間をできるだけ設けて、学生の理解度が増すように努めた。授業評価アンケートの総合評価3「ふつう」以上も必修専門科目は昼間主1組80%、夜間主87%あり、5段階評価の3よりも4以上の評価が多く、それぞれ45%、47%あり、十分満足できる教育を行うことが出来た。
研究	0.30	関係する国際会議等において積極的に研究発表を行う。そして、これまでに得られた成果をまとめて学術誌に投稿し、掲載されることを目指す。	0.30	ロシア・サンクトペテルブルクで開催された国際会議（International Conference on Advanced Dynamics and Model Based Control of Structures and Machines）、兵庫県神戸市で開催された国際会議（ICCM2012）、ならびにインド・デリーで開催されたアジア会議（ACMFMS2012)において研究発表を行った。また、破壊力学の境界要素法に関する論文を投稿した。
社会貢献	0.10	社会連携等担当副学部長として、工業連合会などとの連携に務める。インド工科大学デリー校主催のアジア会議の組織委員会メンバーの一人として協力する。ロシア科学アカデミー・サンクトペテルブルグ科学センター主催の露墺ワークショップの日本側メンバーの一員として協力する。	0.10	工学部後援会などを通じて工業連合会などとの連携強化に努力した。また、南西地域産業活性化センター（NIAC）主催の産官学交流サロンにも積極的に参加して、沖縄総合事務局を始めとする産官学の人たちとの交流にも努めた。インド・デリーでのアジア会議の国際諮問委員会メンバーの一人として、盛況な会議運営に貢献した。ロシア・サンクトペテルブルグでの露墺ワークショップ（国際会議に格上げ）の日本側メンバーの一員として協力し、露墺の先生方との旧交を温めた。
管理運営	0.20	副学部長として学部の円滑な管理運営に積極的に協力する。教授会、研究科委員会、代議会などで、円滑な議事進行に協力する。附属図書館運営委員会委員、附属図書館学術情報基盤資料選定委員会委員として附属図書館の管理運営に協力する。	0.20	副学部長として学部の円滑な管理運営に積極的に協力した。たとえば、ゆんたく会、工学部ニュースの世話役などを行い学部内交流に務めた。また、教授会、研究科委員会、代議会などで、円滑な議事進行に協力した。さらに、地域貢献推進委員会委員、附属図書館運営委員会委員、附属図書館学術情報基盤資料選定委員会委員として全学の管理運営に協力した。
進路指導	0.10	2年次夜間主学生の指導教員として、年次別懇談会などで進路指導の助言を行う。また、研究室所属学生については、進学や就職の情報を積極的に与え、学生満足度が高くなるように務める。	0.10	2年次夜間主の年次指導教員の一人として、進路指導の助言を行った。学習意欲に欠ける学生が多いため、特に16単位未満取得による除籍になる学生数を極力減らすように努めた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	加藤純郎	所　属	工学部　機械システム工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	(1) 学生の基礎学力向上 担当授業の科目（伝熱工学、工業力学等）について、基本的内容の理解に重点を置いた授業を行う。さらに特に成績が下位レベルの学生については、基礎学力をつけるべく強く指導する。 (2) 企業での経験を生かした授業の実施 授業の内容がどのように企業での業務に適用されるのかについて企業での自身の経験に基づいて紹介する。（授業例：伝熱工学） (3)卒業研究、修士，博士論文作成に関して、研究がスムーズに遂行できるようきめ細かな指導を行う	0.3	(1)学部専門科目の授業については教科書をベースにして出来るだけ基礎的な内容に重点を置いて授業を行った（伝熱工学、工業力学、応用工業力学）.さらに、ほぼ毎回授業ごとに演習問題を出すことにより、学力向上を図った. これは学生の授業評価アンケートでも好評である. (2)伝熱工学関連の授業や、学生の研究指導やゼミにおいて、伝熱工学の適用に関して,企業での自身の経験を紹介するよう心がけて、実施している. (3)研究を実施する際に、基礎固めとして、類似論文や基礎原理に関する調査の重要性を、機会があるごとに学生に伝えるとともに,研究ゼミ等で論文調査等にも重点をおいて指導を行った.(博士後期課程学生用投稿準備：2件）
研究	0.35	（1）伝熱工学、宇宙耐熱技術分野等において、学会での発表や論文投稿を行う。 （2）再突入カプセル等の熱防御系に関わる研究を共同（JAXA/九州工業大学/群馬大学/琉球大学等）で実施する。 （3）研究を遂行するうえで、外部資金の導入を計る。	0.3	(1)以下の学会発表、論文投稿を行った. 国内学会発表：5件, 論文投稿：6件（掲載2件,accept:1件，投稿中:1件, 投稿準備中（3月投稿予定）：2件） (2)熱防御共同研究（九州工業大，群馬大，琉球大)を準備中 (3)本年度は導入せず
社会貢献	0.10	（1）学外での委員会等に積極的に参画する。 （2）JAXAにおいて検討が進められている回収カプセルの研究開発に関連して、そのｷｰﾃｸﾉﾛｼﾞｰである熱防御技術について支援等を行う。	0.1	(1)H24防衛局より総合評価アドバイザーの委嘱を受託 地元の企業からの熱技術関連の問い合わせについて対応し、成果を得た. (2)熱防御技術について川崎重工業と共同で研究を実施中
管理運営	0.15	（1）機械システム工学専攻主任やその他の委員としての業務を適切に行う。 （2）教育の改善に関してJABEE活動等をとおして積極的に貢献する。 （3）１年次指導教員として、適宜学生のサポートを行う。	0.25	(1)機械システム工学専攻主任の業務を実施中（H24.4月－H25.3月） (2)JABEE関連委員として基礎学力向上の施策に反映するため、学生の入試成績と入学後の成績の関連を調査した. (3)1年次学生のサポートを適宜実施した.
進路指導	0.05	学生の大学院進学、就職活動等について、積極的に支援を行う。	0.05	適宜、学生の進学、就職活動について、これまでの企業での経験を生かして、積極的にアドバイス・支援を行った. 川崎重工業の関連会社の琉大での就職説明会をサポートした.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前		石川　正明	所　属	工学部　機械システム工学科	職　名	助　教
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.30	・　学生実験のレポートの提出するように，指導教員と協力する. ・　欠席数を極力少なくするために，メール等を活用し，出席を促すようにする. ・　情報科学演習では，メール等を活用して，課題の未提出を減らすようする.		0.30	・　実験レポートの提出状況が悪い学生には，指導教員および直接メール等で連絡し，提出するように努めた. ・欠席管理システム（機シス運用）の情報を元に，欠席の多い学生に対し，メールでの確認および欠席回数の多い学生には直接面談を実施した. ・　情報科学演習では，授業をスムーズに運用するために，メールやメーリングリストの活用して実施した.	
研究	0.50	・　国際学会や国内学会へ積極的に参加し，成果を発表する.		0.55	・可視化情報学会(新宿，7/23-25)にて，座長および講演発表を行った. ・混相流学会講演会（柏，8/8-11）にて，座長および講演発表を行った. ・ターボ機械沖縄講演会(沖縄，9/20)にて，学生に講演発表をさせた. ・機械学会FED講演(京都，11/16-19)にて，学生を引率し，講演会へ参加した.	
社会貢献	0.10	・日本混相流学会における委員会へ参画する.		0.05	・混相流学会リエゾン委員（混相流計測技術分科会）に参加した	
管理運営	0.05	・学部・学科レク委員として，教員間の協調や友好を図る.		0.05	・年末，年始において，学科教員の親睦を図った.	
進路指導	0.05	・メールまたはゼミ等を活用し，進路状況を把握するとともに，情報を提供する.		0.05	・就職関連のメールを掲示等を行った．研究室の学生全員が進学，就職できた.	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松田昇一	所　属	機械システム工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学生から積極的に意見を聞き、授業を改善する. 研究室の4年生を対象として伝熱ゼミを行う. 各卒業研究に対する英語論文ゼミおよび進捗ゼミを行う.	0.30	学生から積極的に意見を聞き、その都度資料を作り対応した. 金沢で開かれた機械年次大会に3人の学生を発表させた. 4年生を対象に学部生・院生を対象に英語の伝熱ゼミを開き，基礎を固めた. 研究室の学部生・院生を対象に英語論文のゼミを年間をとおして行った. . PBL手法によるエンジニアリング教育に力を入れた.
研究	0.40	学会誌へ投稿（1～2件）を目指す. 国内発表（3～4件）を目指す. 科学研究費補助金の獲得を目指す. 大阪大学接合科学研究所との共同研究を行う. 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行う.	0.40	学会誌へ2件投稿し，掲載が決定した （溶接学会論文集，STWJ）. 国内学会にて5件発表（本人：2件，学生：3件） 溶融池磁場溶接に関して大阪大学接合科学研究所との共同研究を行った. 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行った.
社会貢献	0.10	学外の行事に参加する. 溶接学会の若手の会委員，教育委員として社会貢献に努める.	0.10	Symposium on Explosion, Shock wave & High-energy reaction Phenomena 2013に組織委員として参加し企画運営に携わった. 機械の日イベントの共催で「クルマの魅力」展示会（10月27日）を企画・運営をし，800馬力以上の新型のエンジンを搭載した車（13台）および分解エンジンを展示した. その結果，学内外から約160名の見学者が訪れた.
管理運営	0.10	学科会計員として教職員の方々がスムーズに研究，教育活動ができるように努める.	0.10	学科会計員として学科会計に関わった. 溶接学会の若手の会委員，教育委員を勤めた.
進路指導	0.10	学生が就職や進学の相談しやすい環境を作る. 新入生の指導教員として，修学サポートをする. 研究室学生の履歴書の書き方や面接の指導をする.	0.10	常時，研究室に学生が集まりやすい環境を作り，研究や進路の相談に乗った. 学内で開催される就職説明会とは別に，学外で開かれる就職説明会を個人的に学生に紹介した. 新1学年の次指導教員として，多くの学生の学習および進路指導を行った. 残念ながら2件休学（内1件は進路変更のため）となった.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	柴田信一	所　属	工学部機械システム工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	機械基礎工学，材料加工学I，高分子合成論，機械システム設計製図I，機械システム工学実験I,IIおよび大学院博士前期課程，後期課程において講義をそれぞれ行う.	0.30	機械基礎工学，材料加工学I，高分子合成論，機械システム設計製図I，機械システム工学実験I,II，材料加工学実習および大学院博士前期課程において講義を行った.
研究	0.30	国際的学術雑誌にて研究論文を発表する．共同研究で受託研究および奨学寄附金を得る.	0.30	Bioresourcesに研究論文を1件，投稿・採択された．受託研究では大阪ガス株式会社，奨学寄附金では三菱樹脂株式会社，不二製油株式会社から外部資金を得た.
社会貢献	0.20	研究の実用化を行う．特許出願を行う.	0.20	平成24年12月25日には，トヨタ自動車株式会社から発売された新型クラウンのエンジンVカバーに開発したバガスPP耐熱コンポジットが採用された．特許出願では，新規乳酸菌Bacillus coagulans F6-2に関する出願を行った.
管理運営	0.10	工学部研究推進委員会，機械工作工場長として活動する．JABEEにて教育改善FDを行う．高校訪問を行う.	0.10	工学部研究推進委員会，機械工作工場長として活動を行った．JABEEではFD活動1件を行った.
進路指導	0.10	学科就職担当として学生の就職活動および大学院進学に係る活動を行う.	0.10	学科就職担当として学生の就職活動および大学院進学に関わる活動を行った.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	近藤了嗣	所　属	工学部 機械システム工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	講義に関して，専任科目では授業評価アンケートで本学教育目標にある「普通」以上7割達成を目指して継続的改善に努める．共担科目では「普通」以上7割達成に貢献できるように努める．なお，証拠資料はJABEE保存資料の授業改善アンケートとする．	0.40	専任科目，共担科目共に「普通」以上7割を達成した．前学期専任科目の機械システム設計製図ではエンジニアデザイン能力の養成のため，課題の自己設定，自己解決，自己評価，これらのグループワークを導入した．また，後学期専任科目の工業力学では演習回数を増やすことで，学生の理解度を高める事に務めた．また，過年度生に対する救済措置として応用工業力学を開講した．通常よりも演習回数を増やすと共に解法の手引きを教示することで，学生の理解度を高める事に務めた． 結果，「普通」以上，10割を達成し，今年度の目標を達成した．
研究	0.30	現在，遂行中の研究課題の成果に関して，学会発表，学術論文執筆，投稿，掲載を目標とする．なお，研究進捗状況や研究予算，原稿執筆から投稿，査読，掲載までの期間を考慮して，年間で1件程度の学会発表，論文投稿を目標とする．なお，証拠資料は原稿別刷りとする．	0.30	現在，遂行中の研究課題の成果に関して，日本材料学会第61期学術講演会，日本機械学会2012年年次大会，合計2件学会発表を行った．また，他大学の共同研究者との研究課題に関しては，国際会議（The 5th International Symposium on Designing, Processing and Properties of Advanced Engineering Materials (ISAEM-2012)）が1件，共著論文は1件，Philosophical Magazine & Philosophical Magazine Letters に掲載決定され，今年度の目標を達成した．
社会貢献	0.05	産官学連携事業推進等に努める．なお，現在，技術相談は時折の業務なので，業務ウェイトは0.05とした．証拠資料は関連資料とする．	0.05	島嶼防災研究センターから研究予算(文科省特別経費「社会科学及び自然科学の統合による自然災害の予測と分散機構の解明」)を頂き，防災研究課題の遂行に取り組んだ．なお，研究成果に関しては，上記の研究の欄の年度末自己点検結果の通りであり，今年度の目標を達成した．
管理運営	0.20	学部の将来計画委員会委員を務める．	0.20	学部では将来計画委員会，学科では広報委員会委員，また，全学では情報処理センター運営委員会委員を務め，当初の目標以上に管理運営に貢献できた．
進路指導	0.05	就職担当ではないので，年次指導と卒業研究指導の担当学生に対して，教育研究指導の一環として行う．なお，就職に関しては学生が内定を得るまでの業務なので，業務ウェイトは0.05とした．	0.05	担当学生に対して，一週間に一度，ゼミ形式で定期的に進路相談の時間を用意し，目標を達成した．
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。